

子どもの本だな 144

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

タチ はるかなるモンゴルをめざして

ジェイムズ・オールドリッジ 作
中村 妙子 訳 (評論社)

モンゴルの少年バリュートは、絶滅したとされていた蒙古野馬(もうこのうま)を見つけ、その群れの中で一番大胆で気の荒い若馬を「タチ」と名付けました。バリュートは、この発見を誰にも話しませんでしたが、研究者に知られ、蒙古野馬の保護のため、タチはイギリスに送られます。タチは保護地の石垣を蹴破り、つれあいとなった牝馬のピープを連れて逃げ出しましたが、博労(ばくろう)に捕まり、フランスの処分場へ送られます。柵の下に穴を掘って抜け出したタチは、人目につかない夜に行動します。フランスの野馬の群れと戦い、イタリアではジプシーたちによる鉄条網の囲いを突き破り、国境の高い山々を越えて、ただ一心に故郷のモンゴルをめざします。ピープの飼い主であるキティとバリュートの手紙のやり取りという形でタチの旅が描かれ、読者はふたりとともにタチとピープを心配し、その行方を追うことでしょう。2年以上をかけてモンゴルにたどり着く結末に安堵し、タチの強い意志と誇り高い精神が心に残ります。

(藤川)

図書館の本棚 471

アウシュヴィッツの聖人を追いかけて ある被爆者と桜守の物語

阿部 菜穂子 著 岩波書店 (1982)

「アウシュヴィッツの聖人」と呼ばれるポーランドのカトリック司祭コルベ神父は、第二次世界大戦中、強制収容所で見ず知らずの囚人の代わりに餓死刑を受け入れた。この自己犠牲の愛は、極限状況化において人間の尊厳と愛の力を示した。

日本には、コルベ神父の精神と行動に深く共鳴し、その志を継いだ2人の人物がいた。1人は、1945年の長崎で被爆し、後にカトリック司祭となった小崎登明氏である。戦後、彼はかつてコルベ神父が長崎で設立した「聖母の騎士修道院」に入り、神父の自己犠牲の愛を生涯の規範とした。そして、被爆体験と信仰を重ね合わせながら、核兵器廃絶と平和の祈りを国内外に伝え続けた。もう1人は、北海道で長年桜の育成と保護に尽力した「桜守」浅利一忠氏。シベリア抑留者や捕虜の強制労働の事実に関心をもち、浅利氏は、コルベ神父の隣人愛の精神に感銘を受け、戦後の贖罪と平和への願いを込めて、故郷の道産サクラ420本を神父ゆかりのポーランドの修道院へ寄贈した。著者は、浅利氏によって寄贈された桜の行方を追う中で、長崎の小崎氏の存在にたどり着いた。本来交わることのなかった3人の人生が、時代と国境を超えて1本の糸で結ばれていく…。著者は、複雑に入り組んだ歴史に苦闘しながらも、この時代を生き抜いた人たちの言葉を残さねばという使命感に突き動かされ、7年間の調査を経て本書を完成させた。コルベ神父の「究極の愛」は、小崎氏や浅利氏の「憎しみを乗り越えようとする強い意志」へとつながり、鎮魂と未来への希望という国や民族を超えた平和のメッセージとなっている。そして、未だ紛争の絶えない現代において、私たちが平和を実現するために必要な人間の本質的な優しさを教え続けてくれている。

(八木)

お知らせ

◆ えほんかるた大会 ◇

- ・日時：1月11日(日) 11:00～
- ・場所：図書館 読書会室
- ・対象：4歳～小学校3年生
※園児と小学生は別の組にします。
- ・定員：15名程度(要申込・抽選)
- ・申込：図書館窓口または電話
- ・申込期間：1月7日(水)まで
※抽選結果は、8日(木)に当選者に連絡します。

『うなぎのうーちゃん』

だいぼうけん』原画展

- ・展示期間：1月31日(土)～2月15日(日)
- ・展示場所：太子町立図書館内

『うなぎのうーちゃん だいぼうけん』

黒木 真理 文 / 須飼 秀和 絵
(福音館書店)

1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				×	×	×
4	5	×	7	8	9	10
11	12	×	×	15	16	17
18	19	×	21	22	23	24
25	26	×	28	29	×	31

2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	×	4	5	6	7
8	9	×	11	×	13	14
15	16	×	18	19	20	21
22	23	×	×	26	×	28

▶ ×印は休館日

- ・祝日の振替休館
1/14、2/12、2/25
- ・館内整理日
1/30、2/27

※閉館時は返却ポストをご利用ください。

▶ 開館時間

10:00～18:00
※金曜日 10:00～20:00

1月	2月	1・2月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
8日	5日			福地(三反長) 地域内 14:30～14:50	米田 公会堂 15:00～15:20	竹広南 公民館 15:30～15:50
15日	19日			原池田地 公民館 15:00～15:20	山田 掲示板前 15:30～15:50	原 太田東地区 農村交流 センター 16:00～16:20
22日	26日	広坂 公民館 10:30～10:50	上太田 公民館 11:00～11:20	塚森 地域内 15:00～15:20	太子 ニュータウン 公民館 15:30～15:50	吉福 公民館 16:00～16:20



地下水

図書館の周りの落葉樹がすっかり葉を落とした。落ち葉の下では様々な種が芽吹き、のびのびと育っていることだろう。

『びっくりまっぼっくり』(福音館書店)という絵本がある。まっぼっくりが

雨の日は閉じ、晴れた日には開いて種を風にのせて飛ばすことや、種にはうすい翼がついていて、くるくると回転しながら飛ぶことなどが描かれていて、自然のしくみに感心する。マツの種が飛んでいる様子を目にする機会はあまりないので、マツ・ニワウルシ・ラワン種の模型を折り紙で作ってみた。それぞれに翼のつき方、回転のしかたが違って面白。児童室にいた子どもたちと飛ばしてみようと、種の模型はクルクルと回るともあれば、ストンと落ちることもある。何度か試すうちに、A君が翼の先を少し反らせた。確実に回転するようになり、滞空時間が少しのびた。その成果にA君は満足げだ。紙飛行機を楽しんだ経験があるのだろうか。この模型で遊んだ経験も、いつか何かしらの気づきや探求心に繋がるかもしれない。そう願って、今日も好奇心の種を探している。

(秋澤)